ふるさと宿南

★　第１４９号　★
発行　令和 ５年１２月
宿南地区自治協議会

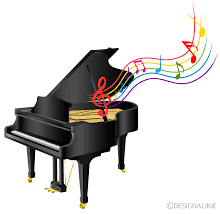
TEL・fax:662-3400
Email：kyosyukunami@maia.eonet.ne.jp

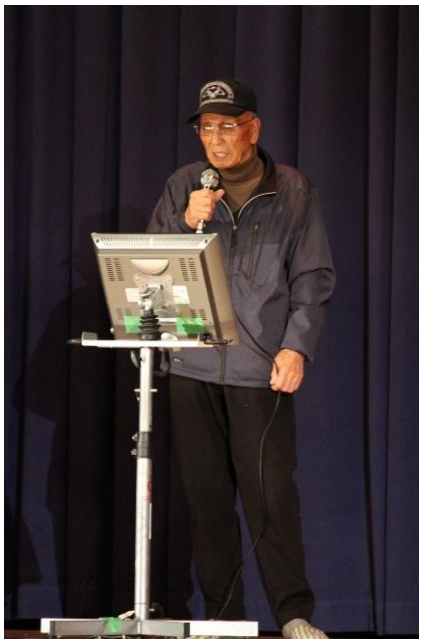
第６４回宿南地区文化祭 開催

１１月１９日（日）宿南地区文化祭が４年ぶりに開催されました。午前は宿南小学校の学習発表会、午後から芸能発表会を行いました。校舎２階の展示コーナーには、区民の皆さんから出品していただいたたくさんの作品（手芸・写真・編み物・絵手紙・絵画・色鉛筆画等）が展示されました。また、八鹿青渓中学校の宿南地区生徒さんの絵画・書も展示され、区長会による池田草庵展では、普段は見られない草庵の書２点、佐藤一斎（草庵の先生）の書１点、今年度建設予定の青谿書院休憩所の概要が紹介されました。

農林物産展には、２１種類７３点の出品をいただきました。ＪＡたじま営農生活センター様のご協力により審査を行い、金賞２点・銀賞５点・銅賞１０点を選出しました。芸能発表会第１部では、文化部会長、自治協議会会長の挨拶に続き、農林物産展 金賞受賞者の表彰式が行われ、高木經吉さん（川西区里芋）、多田年男さん（川東区　ショウガ）のお二人が受賞されました。第２部では、三味線演奏・カラオケ・エレキギター・フォークソング・ピアノとホルンのデュオと多彩な発表をしていただきました。今年はインフルエンザで体調を崩している子供が多く、児童は午後１時に一斉下校し午後からの芸能発表会は鑑賞しないことになっており、観客が少ないのではと心配されましたが多くの皆さんにご来場いただきました。最後に全員で「ふるさと」を合唱し今年度の文化祭を終了しました。ありがとうございました。

※文化祭特集号　文化祭の写真をたくさん掲載しました。


©DESIGNALIKIE



忘れ物

１１月１９日文化祭時の忘れ物です。（ひざ掛け）
宿南地区自治協議会でお預かりしております。
お心当たりの方は引き取りにお越しください。

健康長寿大作戦!!2023

～地域ぐるみでヘルシーエイジング～

１１月２２日（水）ふれあい倶楽部ホールにて養父市地域包括支援センター・養父市社会福祉協議会による健康教室が行われ２４名の参加がありました。‘健康調査（令和４年８月実施）から見えてきた地域の今’の説明を受けました。

健康調査分析結果・健康づくり・介護予防の暮らし方の秘訣を教えていただきました。

身近で見られる植物　㉛

チャノキ〈ツバキ科〉

過去に紹介したヤブツバキ、サザンカと同じツバキ科の樹木です。サザンカと同じように、今が花の時期です。実の形も小型ですが、先に記した二種と同じような形状をしています。

1191 年に僧「栄西」が中国から持ち帰り緑茶用に各地で栽培されたそうです。自然と種が広がって、林内や道端にも自生していることがあります。新芽が出る頃に摘んで、新茶を楽しまれてはいかがでしょう。

喫茶ひまわりから お礼とお知らせ

１１月２６日の‘日曜カフェ’には多くの方のご来店、誠にありがとうございました。次回も宜しくお願いします。

１２月のお楽しみデーは１８日（月）・２１日（木）です。クリスマスも近いのでおいしいケーキを用意しています。

尚、１月は１５日（月）１８日（木）に新春企画のお楽しみデーを計画しております。

是非、お越し下さい。お待ちしております。

お知らせ

１２月２４日（日）クリスマス会

１２月２５日（月）喫茶ひまわり 本年最終営業日（冬期休業　12 月 26 日～1 月 10 日）

１２月２９日（金）～１月３日（水）宿南地区自治協議会 ふれあい倶楽部休館

草庵先生紹介

日記　５８

１９８５（昭和６０）年に作られた池田盛之助の墓を覆う上屋

濱篤さん作

「晩、帰院」（嘉永４〈１８５１〉年５月２８日）

池田草庵が、門人の池田盛之助、木築秀次とともに江戸から青谿書院に帰ってきた日の日記だ。２月２７日に出発してから３カ月の旅であった。その日の日記の文面はそれだけ。この旅は、佐藤一斎や大橋訥庵らと出会うなど多くの収穫があった。しかし、門人であり、大きな期待をかけていたおいの盛之助の病を重くしてしまった旅でもあった。

帰郷してからも、盛之助の病はよくならなかった。１１月になると、盛之助はほとんど起き上がれなくなっていた。「（講義の後）片山（実家）に行く。おいの盛（盛之助）の症状を問う。しばらくして國屋松軒（門人で医師）と一緒に帰院してしばらく対話。また、一緒に片山にいく。午後１０時頃帰院」（同１１月１４日）「（講義の後）兄が来て、しばらく話しをする。片山に行き、盛のそばで看病する。午後１０時頃帰院」（同１５日）

このころはほとんど毎日のように盛之助を見舞っているが、容体は悪くなるばかりであった。

「夜、片山に行き盛をみて、夜更けに帰院、就寝。夜中、片山より呼び出しがあり行く。盛が重体。片山に泊」（同２９日）

「昼、盛之助、ついに逝くなり」（同３０日）草庵を始め、家族、地域の人たちに惜しまれながら盛之助は亡くなった。草庵は盛之助を送る祭文を書き、その中で「来春には一つの碑を建て、盛之助の生きた跡を書いておきたい」と誓っている。その文章は１２月の終わりにでき、翌年３月には石碑に刻まれた。

「盛は幼い時から書をよく読み、文章にも親しんだ。成長すると、大変積極的で努力家であった。５歳で実母をなくしたが、継母とも異母兄弟とも争わず大変人間ができていた」（「池田盛墓碑銘」から）などと、６００字近い字数の漢文で書かれている。

池田草庵先生に学ぶ会